



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



サステナビリティレポート 2026

京都生活協同組合

発行

サステナビリティ推進部

〒601-8382 京都府京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

本レポートでは、理念や2030年ビジョンに向かって取り組むことを、「私たちが実現したい姿」で示す4つの項目に沿い、事業と活動内容を報告します。



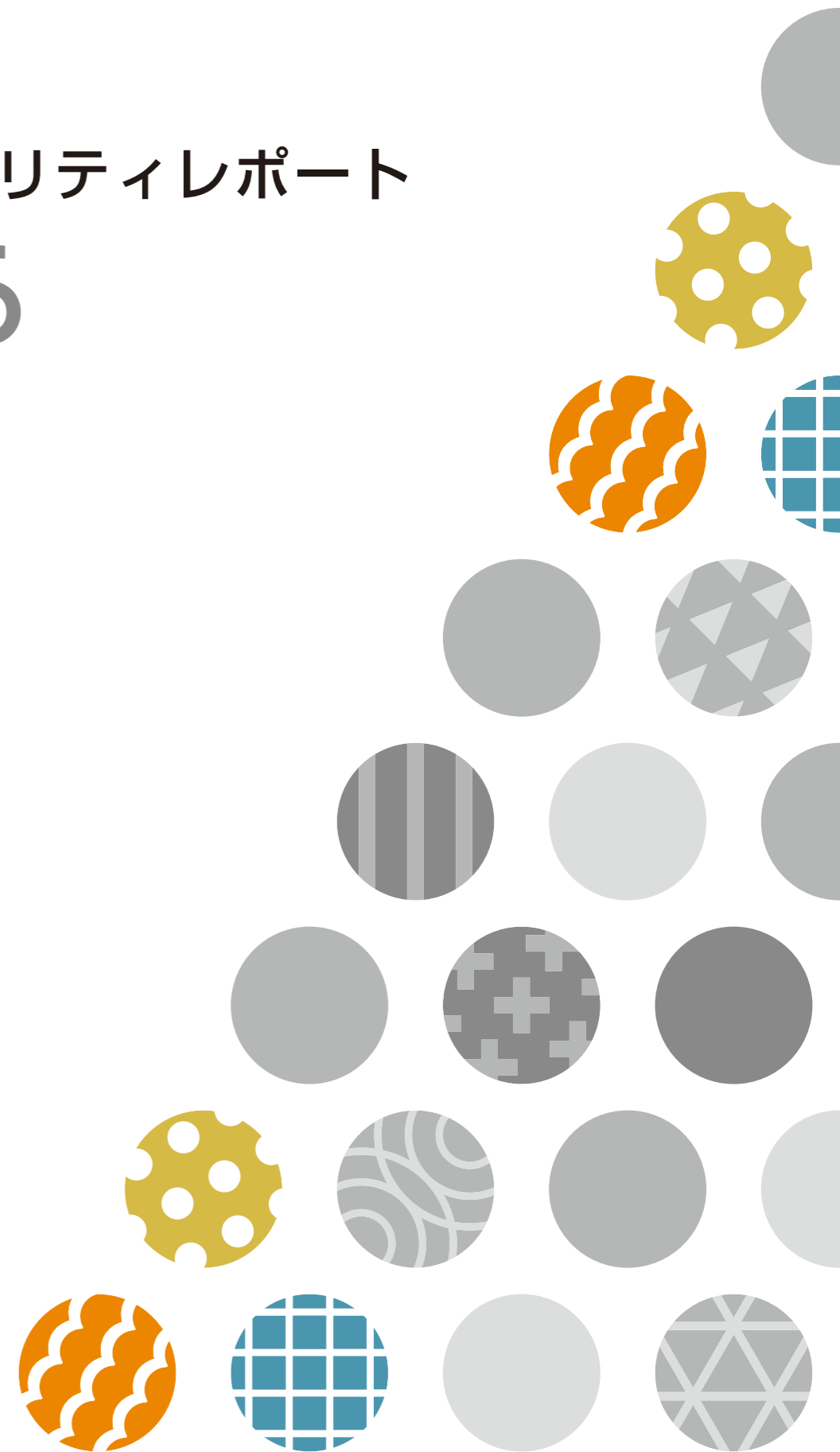
VOC
FREE T&K

用紙：この製品は、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。
印刷インキ：植物由来の資源を原料の一部に使用して製造したVOC含有率1%未満の地球環境に優しいインキを使用しています。

本冊子のご意見・
ご感想をお寄せ
ください



発行：2026年6月



INDEX

- 03 理事長メッセージ
- 04 理念／2030年ビジョン
- 05 ブランドロゴ
- 06 京都生協のあゆみ
- 07 事業紹介
- 08 京都生協とSDGs
- 10 ピックアップ①
プラスチック削減と資源循環のチャレンジ
- 12 ピックアップ②
戦後80年 平和について考える
- 14 私たちが実現したい姿
 - ①総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める
- 20 ②安心して暮らせる地域社会づくり
- 24 ③持続可能な世界の実現に向けて
- 34 ④多様性を認め合う活力ある組織を目指して

編集方針

本レポートは、京都生協が行う商品や事業を通じた持続可能な生産・消費、地域見守り、平和といった持続可能な開発目標SDGsへの貢献につながる取り組み内容を報告しています。京都生協が掲げる「頼もしい隣人たらん」の理念と2030年ビジョンに向かって、組合員・多くのステークホルダーや職員とともに、「私たちが実現したい姿」として定めた4つの項目に沿って、事業や活動内容を報告します。

持続可能な 社会を目指して



京都生協は1964年、物価の高騰などで暮らしに不安が募る中、「お互いに頼もしい隣人となりましょう」との呼びかけで誕生しました。私たちは創立以来「頼もしい隣人たらん」の理念のもと、助け合いの組織として、人と人とのつながりを大切に、食の安全・安心の追求、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、暮らしに寄り添う取り組みを進めてまいりました。

昨年、国連が「国際協同組合年」を定め、協同組合が持続可能な社会づくりに果たす役割への期待と責任が改めて示されました。京都生協では安全・安心な商品の提供を基本に、価格に配慮した家計応援企画、生産者と手を携えた地産地消や産直の充実、地球や環境、社会や人々に優しいエシカル消費の推進、プラスチックや食品ロスの削減など、毎日の暮らしに役立つ工夫を重ねてまいりました。

今や、食や暮らしの安全・安心は社会のスタンダードとなりました。持続可能な社会が求められる今、人への優しさや寄り添う心、人とのつながり、そして地球に対する配慮が、これからのスタンダードになると確信しています。

世界では気候変動や紛争が続き、日本においても平和の課題、農業や食の問題、物価上昇など、暮らしへの影響が深刻化しています。このような中、引き続き事業の総合力で暮らしを支え、見守りや交流の場づくりにも力を入れ、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

2026年度は「京都生協ファンづくり～せいきょうの利用を続ける、協同の価値に共感～」をテーマに、地域経済に貢献する商品開発、子育て世帯や高齢者へのサポート強化、そして地域の絆を深めるコミュニティづくりを進めてまいります。

未来へと続く世代へ安全・安心を手渡していけるように、関係する人々と力を合わせ、2030年ビジョン「京都生協は新たな希望をつくる」を実現していきます。京都生協があっけよかったですと感じただけのよう、誠実に丁寧に歩みを進めてまいります。

理事長 高倉 通孝

理念／2030年ビジョン

理念 頼もしき隣人たらん

私たちは、相手を気にかけて、困っていることはともに考え行動し、暮らしに寄り添い、支え合っていく「頼もしき存在」であり続けます。

2030年ビジョン 京都生協は新たな希望をつくる

次の世代、そしてさらに次の世代へ「安全・安心」な地球環境を手渡していけるように、組合員や職員そして関係する全ての人々と力を合わせ、『新たな希望』をつくります。

私たちが実現したい姿

- (1) 京都生協の総合力で普段の暮らしへの役立ちを高めます。
- (2) 誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを進めます。
- (3) 持続可能な世界の実現に貢献します。
- (4) 多様性を認め合う活力ある組織を目指します。

理念・ビジョン全文



ブランドロゴ



これまでの「安全・安心・信頼」といった基本的な提供価値を継承し、新たな姿勢表明として「KYOTO COOP」「地域」「地球」を表しました。私たちが暮らす町や、地域社会や地球（世界）が持続可能であるように、「安全・安心」により磨きをかけるとともに、多様な人々を認め合い、助け合う関係を紡ぐ希望ある社会を3つの輪にこめました。さまざまな色やパターンを用いて、KYOTO COOPが目指す「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

サブグラフィックエレメント※「7つの輪」

第1～7原則までである「協同組合原則」は、協同組合がその価値を実践に移すための指針です。世界中の協同組合の共通のルールとなっています。この原則をモチーフにしたデザインを配達トラックの架装などに用いて、「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

※ブランドロゴを補完するグラフィック要素

協同組合原則



京都生協のあゆみ



1964
「京都洛北生活協同組合」誕生

1968
生協の店1号店(現コープ下鴨)が開店

1972
「洛南生活協同組合」誕生

1974
「洛北生協」から名称変更、
「京都生活協同組合」誕生



1978
「洛南生協」と組織合同を実施

1981
共同購入に「OCR注文書」を導入

1985
新しいシンボルマークを作成



1986
「左京くらしの助け合いの会」結成

1999
個人宅配がスタート

2000
「あみの生協」と組織合同を実施



2003
「コープきんき事業連合」設立

2012
夕食サポート事業を開始

2021
ブランドロゴをリニューアル

2025
店舗でのレジ袋配布終了



事業紹介

2025年度概況 (2026年3月20日)

組織概要

創 立：1964年11月27日
理 事 長：高倉 通孝

事業活動エリア：京都府全域
子会社・関連会社：5社

宅配事業

京都府全域に週に1回、食品から日用品、雑貨までさまざまな商品をお届けします。

【宅配】

供 給 高：572億円(前年比101%)
(カタログ・ギフト・夕食サポート含む)

事 業 所：10事業所

【夕食サポート】

管理栄養士によってカロリーや塩分を考慮したお弁当の配達サービスを展開しています。

利用人数：4,060人/週

店舗事業

安全・安心の品揃えとサービスを提供し、日々のお買い物から暮らしを支えます。

供 給 高：253億円(前年比103%)

店 舗 数：18店舗

福祉事業

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いのために、きめ細やかな介護サービスをお届けします。

利用人数：1,023人/月平均

事業所数：5事業所

共済事業

全国の組合員同士の「助け合い」の気持ちから生まれた保障制度です。

共済加入件数：274,994件

共済金のお支払い：22億円

葬祭事業

宗教・宗派・形式を問わずご葬儀から仏壇仏具まで、旅立ちのときをお手伝いします。

供 給 高：8,844万円(前年比87%)

葬儀等利用人数：48人/月

グループ会社

京都協同食品プロダクト(株)

水産・畜産の生鮮加工食品の製造、販売を行う、京都生協の加工センターです。

(株)コープネットワークサービス

京都生協の物流や宅配事業を中心に業務を行っています。

(株)ハートコープきょうと

京都生協の特例子会社として、リサイクル事業を通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護などの業務を行っています。

(株)京都コープサービス

各種保険、リフォーム・新築、カルチャー教室、さまざまな斡旋サービスなど、毎日の暮らしの快適さを実現する多彩な商品サービスをご案内しています。

(株)コープストアサービス

コープのお店10店舗で、インスタペーカーリーの運営を行っています。

組合員数：573,085人(前年比100%)
出 資 金：187億円

総事業高：857億円(前年比102%)
職 員 数：1,345人(7.5時間換算) *アルバイト職員除く

供 給 高：827億円(前年比102%)

生協とSDGs

全国各地の生協が加入する「日本生協連」で策定されたSDGs宣言に基づき、京都生協でもSDGs達成目標に貢献するための取り組みを積極的に行っています。

コープSDGs行動宣言 ※2018年6月15日に開催された「日本生協連第68回通常総会」において、全国の生協で採択。

私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。

私たちは、7つの取り組みをつうじて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

 12 つくも責任 つかう責任	持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	 1 貧困をなくそう	世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します
 16 平和と公正を すべての人に	核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	 5 ジェンダー平等を 実現しよう	ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	 11 住み続けられる まちづくりを	誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します
		 3 すべての人に 健康と福祉を	健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます		



京都生協とSDGs

京都生協のSDGsの考え方

京都生協の理念・ビジョンは協同組合原則*と一致し、その行動はSDGs*につながります。

国連は、2012年を「国際協同組合同年」*とし、「協同組合はよりよい社会をめざします」をスローガンとして、世界に協同組合の発展を呼びかけました。そして、2015年9月には、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成をめざすSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」を採択しました。今、気候変動をはじめとして、世界の国々が力を合わせなければ解決できない課題が数多くあります。SDGsは、2030年までに貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼びかけています。協同組合が本来持っている役割とSDGsは、同じ方向性を共有しており、京都生協の考え方や一つひとつの行動は、SDGsの達成に貢献しています。

京都生協の事業と重なるSDGsの取り組み

 1 貧困をなくそう	・ユニセフ支援活動 ・フードドライブ	 2 飢餓をゼロに	・WFP学校給食プログラム支援	 3 すべての人に健康と福祉を	・福祉事業 ・介護食品の供給 ・ピンクリボン運動支援	 10 人や国の不平等をなくそう	・ユニセフ支援活動 ・フェアトレード	 11 住み続けられるまちづくりを	・地域見守り活動 ・買い物困難者支援 ・被災者支援活動	 12 つくも責任 つかう責任	・産直 ・エシカル消費推進 ・プラスチック問題への対応
 4 質の高い教育をみんなに	・食育 ・消費者市民社会づくりの活動実施	 5 ジェンダー平等を実現しよう	・男女共同参画に向けた取り組み	 6 安全な水とトイレを世界中に	・コアノンスマイルスクールプロジェクト	 13 気候変動に具体的な対策を	・事業での温室効果ガス排出削減 ・家庭での削減啓発	 14 海洋環境を清潔に保つ	・海洋環境配慮型製品の開発と普及(MSC、ASCなど)	 15 陸の豊かさを保つ	・森林環境配慮型製品の開発と普及(FSC®など)
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	・再生可能エネルギーをつくり、使い、ひろげる取り組み	 8 働きがいや経済成長を	・健全な経営 ・ワークライフバランスの強化	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	・自動発注 ・セミセルフレジ	 16 平和と公正をすべての人に	・ヒロシマ、ナガサキのピースアクション ・沖縄戦跡基地めぐり	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	・協同組合間協同 ・地域団体、NPO、行政、自治体などとの連携		

ピックアップ① | 未来の世代へつなぐ

プラスチック削減と資源循環のチャレンジ



▲2025年より販売をスタートした京都生協オリジナルマイバッグ

プラスチックは安全で衛生的、安価で加工しやすい一方、使用後の処理が大きな課題となっています。焼却に伴う温室効果ガスの排出や資源の枯渇、海洋プラスチック問題など、環境への影響も指摘されています。京都生協では、持続可能な地球環境の実現に向け、目標を定めてプラスチック削減に取り組んでいます。「使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を2030年までに2018年度比で25%削減すること。」「2030年までに宅配内袋・注文書セット袋のリサイクル回収率40%の達成を目指すこと。」これらの取り組みを通じて、環境負荷の低減を進めています。

レジ袋の廃止とマイバッグのある風景

プラスチック削減を目指す取り組みとしてもう一つ、「レジ袋の取り扱いをなくす」という目標を掲げ、対応を進めてきました。2024年10月から段階的に実施し、その結果、2025年4月1日をもって全18店舗でレジ袋の取り扱いを終了しました。組合員の理解と協力を得ながら、目標を達成することができました。

さらに、マイバッグを忘れたお客様向けの対策として、組合員や職員から提供されたリサイクル紙袋やリサイクルマイバッグ、店内の段ボール箱などを活用できる仕組みを整備しました。加えて、有料の京都生協オリジナルマイバッグやマイバスケット、紙袋も用意することで、多様な選択肢を通じて「マイバッグを持参する買い物」を支えています。

お買い物袋持参率 **97%**



▲リサイクルマイバッグ

京都生協オリジナルマイバッグ

レジ袋廃止に合わせて、植物由来のセルロース繊維を用いたサステナブル素材の「オリジナルマイバッグ」を全店舗で販売しました。日々の買い物で繰り返し使えるマイバッグは、「使い捨てを減らす」というメッセージを目に見える形にするものでもあります。京都生協は、お買い物袋持参運動を1983年から開始し、1996年には全店でレジ袋有料化を実現してきました。

透明容器・透明ふたのリサイクル

紙パックやペットボトルに加え、2024年度から「透明容器・透明ふた」の店頭回収を開始しました。まずコープながおか、コープ山科新十条の2店舗で試験導入し、組合員による丁寧な分別と高い協力を得て、2025年3月からはコープにしがも、コープさかのへと実施店舗を拡大しました。回収された透明容器やふたは、店舗で使うリサイクル製品「エコトレー」に生まれ変わり、資源循環の輪を店舗の中で「見える化」しています。

さらに2025年10月からは、コープ醍醐石田でも透明容器・透明ふたの回収を開始しました。組合員による高い分別意識と協力のもと、今後も「洗う」「乾かす」「専用ボックスへ」の3ステップを分かりやすく案内していきます。



認定・表彰にみる、店舗と組合員の協働

京都生協の店舗で行う取り組みが評価され、コープ桃山とコープ山科新十条は、京都市から「2R及び分別・リサイクル活動優良事業所」に認定され、さらに「2R及び分別・リサイクル活動優良賞」を受賞しました。コープ桃山では、レジ袋廃止にあたり、丁寧な説明と、家庭で眠っていたマイバッグや紙袋を集めて忘れた方に無料提供する工夫を重ね、およそ98%という高いお買い物袋持参率を実現しました。コープ山科新十条では、店頭のペットボトル回収品から作られた透明容器を店内で使用しており、その循環の流れをPOPで案内しています。

京都市内では、ごみ発生量がピーク時の半分に減少し、事業で排出されるごみの量も以前より減っていると報告されています。その中で京都生協の2店舗の取り組みが表彰されたことは、「事業者の工夫」と「利用する組合員一人ひとりの行動」が結びついた成果といえます。

商品パッケージにおけるプラスチック使用量の削減

商品パッケージにおいてもプラスチック使用量の削減を進めました。京都生協コープ商品「KYOTO 白」に使用しているプラスチック包材のサイズを縮小しました。宅配の「産直たまご」パッケージを、たまごが割れにくいよう仕切りの高さ、厚みを薄くすることによって、旧包材から0.6gを減量し、出荷量から算出すると年間1,559kgのプラスチックを削減しました。店舗は、エコトレー変更によるCO₂削減効果のポスター掲示や包材の見直しを進めました。

サステナビリティ

サステナブルな情報をまとめた専用WEBページをご用意しています。こちらもお合わせてご覧ください。



戦後80年 平和について考える



未来の子どもたちに向けて

京都生協が考える平和とは、「ごく普通の日常を、ごく普通に過ごせる状況」であり、その実現のための活動は「いのちと暮らしを守ること」だとしています。私たちが思い描く平和は、一人ひとりが大切にされ、安心して暮らせる社会、自分自身や家族、地域、さらには地球に住むすべての人たちが笑顔で生活できることを目指しています。そのために、誰もが平和をつくる主体であることを意識し、大人だけでなく未来を担う子どもたちにも平和について考える機会を届けています。

憲法について学びを深める学習会の開催

5月、平和活動家で元ユース非核特使の中西麻奈未さんがコーディネーターを務め、参加者と「幸せを感じる瞬間」「悲しくなる瞬間」といった身近な問いから日常の中の平和を考える学習会を開催しました。憲法を学び・使うことが私たちの生活を守り、世界の平和にも貢献できるという気づきを共有する場となりました。

また7月には、親子で参加するワークショップと講演会「世界のこと、貧困、戦争、そして平和」を開催しました。経済格差や不平等を体験的に学ぶ「貿易ゲーム」を通して、世界のしくみと協力の大切さを実感した後、カンボジアの地雷被害など、現場に根ざした平和活動の経験を聞きました。

「世界は一つの教室のようなもの。負の連鎖を自分のところで止めることが重要。」というメッセージは、子どもたちにも大人にも深く刻まれました。



ピースアクションinヒロシマへの参加

8月、広島県生協連と日本生協連が主催した「ピースアクションinヒロシマ2025」に、全国の生協の仲間とともに、京都生協からも親子を含む9人で参加しました。この取り組みは、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、1978年から毎年開催されています。

今回の参加を通じて、平和記念公園や資料館、小学校平和資料館での学びや、被爆体験を継承する講演、「虹のひろば」での交流を通じて、「原爆は絶対にいらない」「次は自分が語りつぐ人になりたい」といった声を子どもたちから聞くことができました。



被爆ピアノで未来へつなぐ平和コンサート

秋には、広島で被爆したピアノを迎え、ピアノコンサートを開催しました。多くの傷を負いながらも、調律師矢川光則さんの手によってよみがえったピアノの音色と、ピアニストの竿下和美さんや京都聖母学院中学校・高等学校コーラス部の演奏・朗読が重なり、音楽を通じて戦争の記憶といのちの尊さに向き合う時間となりました。会場では、子どもたちによる平和学習の報告や、広島市立基町高校の学生が被爆直後の広島を描いた「原爆の絵」展を行い、平和の大切さを伝えました。

子ども平和新聞プロジェクト

京都府生活協同組合連合会が主催する「子ども平和新聞プロジェクト」に共催して取り組み、次世代を担う子どもたちがジャーナリズムの視点を学びながら、平和について深く考え、自らの手で新聞を作り上げました。

京都新聞社の記者による新聞記事の書き方指導や、立命館大学国際平和ミュージアムでの対話型展示鑑賞。さらに、平和についての取材や質疑応答を通じて、子どもたちは自分の視点で平和の重要性に気づくことができました。子どもたちが制作した新聞は、コープ二条駅KYOTO Co-Labや被爆ピアノコンサート会場に展示され、平和への願いを多くの方に届けることができました。

被爆者をはげますつどい

被爆者とその家族を支える取り組みとして、今回61回目を迎える「被爆者をはげますつどい」に参加しました。忘れてはならない戦争の記憶を語り継ぎ、寄り添うために、毎年多くの被爆者とその家族、支援者が集まっています。京都生協からは、組合員から寄せられたメッセージ付きの折り鶴やクリスマスカード、組合員活動から届いたプレゼントやお見舞金を贈呈しました。



戦争と被爆体験80年の証言 冊子の発行

戦争・被爆体験談集『未来へつなぐ記憶 戦争と被爆体験 80年の証言』（全16ページ）を発行しました。2016年より京都生協の機関紙『コーポロ』8月号に掲載されてきた、組合員の戦争・被爆体験談の中から、引き揚げや空襲、学徒動員、被爆の記憶、そして語り継ぐ使命をもった若い世代の声までを収録しています。

京都生協
平和への願い



戦争体験談



総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める

お買い物、子育て、家計、防災。暮らしの課題は一つではありません。京都生協は「宅配」「店舗」「福祉」「共済」「葬祭」「組合員活動」をつなぎ、組合員の声を起点にサービスを磨き続けてきました。これからは総合力でもっと便利に、もっと安心に。あなたの毎日をトータルで支える“暮らしのベストパートナー”を目指します。

食育からつながる学びと交流

家族との食卓の大切さを学ぶ講演会の開催

パパ料理研究家・滝村雅晴さんによる食育講演会を開催しました。家族で楽しく食卓を囲むことの大切さや共働き世帯でも取り組みやすい「ゆる食育」についてレシピや食材選びの工夫を、料理実演を交えながらご紹介いただきました。節分行事に合わせ開催したオンライン料理教室には70人以上の親子が参加し、家族みんなで恵方巻づくりに挑戦しました。参加者からは「料理を通して家族との時間を楽しみたい」など多くの感想が寄せられました。



体験型食育教室 夏野菜の特徴を楽しく学ぼう

五感で学ぶ料理教室「ククラブ」さんを講師に迎え、組合員親子を対象とした料理教室を開催しました。夏野菜の特徴や違いについて学びながら、実際に野菜を手にとって重さや形を確かめる体験をした後、大きな水槽にかぼちゃやナスなどを入れて、野菜が水に浮くかどうかの実験を行いました。熟したトマトが水に沈む理由を知ること、食べごろを見分ける方法など、普段の生活にも役立つ情報も学ぶことができました。



産地交流 収穫体験

京都市左京区大原にある有機野菜栽培農家「つくだ農園」にて、京都府生活協同組合連合会と京都生協の共催で「秋の収穫体験! さつまいもほりを楽しもう!」を開催しました。有機農業やつるの取り方のレクチャーを受けた後、土の中からさつまいもを掘り出す芋ほり体験を行いました。自然に触れ、秋の恵みを味わいながら、有機農業への理解を深める充実した取り組みとなりました。



産地交流 も～も～キャンプ

「も～も～キャンプ」は、COOP牛乳産直交流協会・大山乳業農協・鳥取県畜産農協・京都生協が合同で主催する、組合員親子向けの一泊二日の産地交流イベントです。京都生協コープ商品「KYOTO せいきょう牛乳」と「産直鳥取牛」のふるさとを訪ね、自然の中でキャンプを楽しみながら、生協の産直と環境への思い、生産者の品質へのこだわりを体感しました。1971年に「母と子の自然教室」として始まり、顔の見える関係を育む取り組みとして毎年開催しています。2025年は21組55人の親子が参加し、テント設営や薪割り、産直鳥取牛のバーベキューや、牛乳パックを使用した手作りランタンづくりを楽しみました。翌朝は牧場へ行き、仔牛のエサやり体験や生産者との交流をしました。組合員と生産者が関わる貴重な時間となりました。



総合力で学びを応援 組合員活動 —エリア会—

エリア会は、組合員が「もっと知りたいこと」をテーマに、学習会や交流会を自分たちで企画・運営する参加型の組合員活動です。府内25地域に展開し、自分たちが学びたいテーマ選びを経て、企画づくり・実行までをメンバーが主体で進め活動しています。学びの講師は、京都生協の職員や取引先、産直生産者が担うことも多く、三者が交流しながら、暮らしに役立つ知恵を深めあっています。参加者からは「生協のことをたくさん知れた」「商品への関心が高まった」との声が寄せられました。



地域連携と子育て支援

行政と子育て支援の連携

行政とともに子育て支援に取り組むため、以前より伏見区と東山区の子育て事業へ「CO・OP赤ちゃんのおしりふき」や「コーすけのスタイ」といった子育て関連グッズの提供を行っています。2025年度は、伏見区の醍醐支所および深草支所への提供を新たに開始しました。さらに、より安定的で幅広い支援につなげられるよう、上記伏見区内3支所と連携協定を締結し支援環境の充実を進めました。これらの経過を受け、京都市からは感謝状をいただきました。



子育てひろばの開催

親子がほっと集える場として京都府下7会場、オンラインも含むかたかで京都生協の「子育てひろば」を開催しています。組合員に限らず地域のどなたでも参加でき、絵本の読み聞かせや歌、手遊び、季節に合わせたイベントを通じて親子の時間を楽しみます。子育てを通じて社会とつながったり、参加者同士の交流も自然に育まれています。SNSでひろばの様子を発信したり、子どもの手形や足形を取ったりといったイベントを行いました。



子育てひろば -サステナブル-

北ブロック子育てひろばでは、「子ども服ゆすりあい交流会*春」を3会場で開催し、計139人が参加しました。大切にしていたサイズアウトの服を持ち寄り、それらを欲しい方と交換するイベントです。また、東ブロック子育てひろばでは、ご家庭で眠っている絵本を持ち寄り交換する取り組みを継続して行いました。親子のつながりを深めるとともに、環境保護にもつながる活動となっています。



場所	開催日
コープ二条駅 2階 KYOTO Co-Lab (きょうとこらぼ)	毎月第1金曜日を基本とします。 (変更の時もあります) 10:30~11:30
コープきぬがさ会館 2階 集会室	毎月第2木曜日を基本とします。 (変更の時もあります) 10:30~11:30
コープ下鴨 2階 集会室	毎月第3金曜日を基本とします。 (変更の時もあります) 10:30~11:30

場所	開催日
コープながおか	毎月第1金曜日 10:30~12:00
コープパリティ	毎月第4水曜日 10:30~12:00
コープ桃山	偶数月第4木曜日 10:30~11:30
コープ山科新十条	奇数月第4木曜日 10:30~11:30
オンライン子育てひろば	毎月オンライン開催

はじまるばこ

京都府にお住まいの1歳未満の赤ちゃんがいるご家庭へ、育児をサポートする食品や日用品を詰め合わせた「はじまるばこ」をお届けする取り組みを2016年から続けています。子育てのスタート期に、毎日の暮らしで役立つものを手渡し、地域での安心につなげることが目的です。京都新聞社との協業を契機に、お誕生記念新聞の案内も始めました。京都で子育てをする方の一助となるよう、今後も取り組みを続けていきます。



多角的な学びの支援

はじめてのおかいもの

コープ二条駅にて「はじめてのおかいもの」イベントを開催しました。保護者が用意した買い物リストと現金を手に店内へ進み、商品を探す姿やレジで支払いをする様子を職員がスマートフォンで撮影。2階のKYOTO Co-Labに設置したモニターに、買い物をしている様子をリアルタイムで映し出し、保護者がその様子を見届けました。達成感あふれる子どもたちの笑顔が広がる和やかなひとときになりました。



海外大学 企業訪問の受け入れ

コープ二条駅に米国からの学生が来訪され、組織概要や経営課題、協同組合の仕組みを紹介し、活発な質疑応答を実施しました。京都生協コープ商品「KYOTO 抹茶」のティーセレモニー体験も行い、隣接する店舗とも協力し、日本文化と商品の魅力を実感いただきました。日本のビジネス運営を学んでいただく貴重な機会となりました。



地域社会との共生・共創

Coop Fan Meeting

Coop Fan Meetingは、生産者のこだわりや商品への想いを直接聞ける、年に一度のコープファンの交流イベントです。2026年2月に京都市勤業館みやこめっせで開催し、「Coop みんなでつながるDay」をテーマに、生産者、メーカー、組合員が交流・共感し、地域と「つながる」場となるようなファンミーティングを目指しました。会場には39カ所のブースが並び、生産者直送品からプライベートブランド商品まで幅広い商品を紹介し、参加者は試食や試飲、体験を通じて商品の背景やこだわりに触れることができました。また今年は、会場に「マイ箸」の持参を呼びかけ、来場者とともに環境に優しい参加スタイルにも取り組みました。



伝統技術を用いた製品の採用

第8回Woodyコンテスト木製家具部門の最優秀賞作品を、KYOTO Co-Labに設置しました。京都府が主催のWoodyコンテストは、京都府産のスギ・ヒノキを活用し、暮らしの中で木材を生かす「木の文化」の継承と新たな利活用の開拓を目指して2017年度から実施されています。学生や建築士、デザイナー、職人らから木造住宅・木製家具のアイデアを募集し、最優秀作品を実制作して京のまちに設置する取り組みです。今回展示の椅子「Lattice」は、京都の街並みに連なる格子戸がモチーフ。京都府産杉を用い、釘や木ねじを使わず「相欠き接ぎ」で組み上げられています。



祇園祭うちわの配布

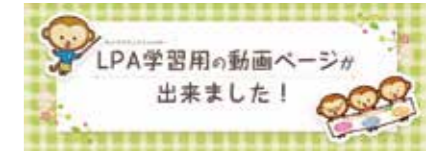
祇園祭は千年以上の歴史を持ち、7月1日（吉符入）から31日（疫神社夏越祭）まで、1カ月にわたって多彩な祭事が行われる八坂神社の祭礼です。祇園祭の伝統を未来へ継承していくために、うちわを作成し応援しています。うちわ骨に京都府産の廃棄米を使用したバイオマスプラスチックを、紙は宇治川の葦を使った葦紙を使用し、環境に配慮したうちわになっています。



暮らしのもしもをサポート

共済事業

組合員自らが「ライフプランアドバイザー（LPA）」となり、お金やライフプランに関する専門知識を身につけて活動しています。京都生協内外で講演会や学習会の企画・講師を担当し、地域や組合員の金融リテラシーの向上に取り組んでいます。活動の一環として「社会人のお金の話」など、身近なライフプランに関するテーマを分かりやすく解説した動画を制作・公開しており、誰でも気軽に学べる環境づくりを進めています。



動画ページはこちら



福祉事業

利用者向け『生協10の基本ケア』の考え方や事例を毎月のおたよりで紹介したり、介護相談会や組合員向け学習会を実施しています。コープきぬがさにて行われた相談会では、介護に関する個別相談を行い、参加者からは「介護の相談ができて安心した」などの声が寄せられました。



葬祭事業

クオレの会員向け会報誌「クオレものがたり」の発行、葬儀の基礎知識や費用の目安などを学ぶ葬祭ミニ学習会（主に職員向け）や、相続遺言学習会（生協の組合員向け）を開催しました。参加者からは「家族と話し合うきっかけになった」との声が寄せられました。



商品点検・検査の実施

商品を安心してご利用いただくため、定期的に点検・検査を実施し、商品の確かさ・安全性・品質を科学的に検証しています。

産地・取引先での点検の様子を公開中



検査名	内容	数
微生物検査	微生物による食中毒のリスクが高い食品を中心に国の基準よりも厳しい生協の独自基準に基づき検査を実施します	2,723検体
理化学検査	残留農薬や放射性物質（セシウム）などの検査を行います	203検体
産地点検	産直商品の産地を訪問し、農畜産物の栽培、飼育方法などを確認します	61カ所
工場等の点検	京都生協コープ商品の製造工場をはじめ、取引先や店舗を訪問して衛生的な環境のもとで商品が製造されていることなどを確認します	67カ所

安心して暮らせる地域社会づくり

京都生協が提供するサービスは「食」を中心としたものにとどまらず、組合員、地域や行政などと連携しながら暮らしを支えています。時代とともに変化し続ける地域の暮らし、その中で誰も取り残すことなく住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会づくりに取り組んでいます。

すべての人にやさしい買い物支援のかたち

買い物送迎サービス おかいものサポートカー

「おかいものサポートカー」は、毎週決まった曜日・時間にご自宅の近くから店舗までを無料で送迎しています。コープ桃山や、発祥の地であるコープ醍醐石田では車両の増便により利用が安定し、利用者から好評をいただきました。また、店舗のリニューアルに合わせてコープ祝園駅での新規運行を開始しました。10月にはコープいわくらでも運行を始め、実施店舗は14店舗に拡大しました。

運行店舗数 **14店舗**
登録者数 **1,453人**



移動店舗おかいもの便

軽トラック車両に必要な日用品や食料品を積み込み、店舗が少ない地域を中心に「移動店舗おかいもの便」を運行しています。このサービスは、店舗に足を運ぶことが難しい高齢者やお買い物が困難な地域にお住まいの組合員に喜ばれており、ご利用者も増えています。自治体や社会福祉協議会、福祉施設などと連携して停留所の拡大を進めています。

利用人数 **740人/週**
停留所数 **102カ所**



夕食宅配サービス 夕食サポート

「夕食サポート」は、その日の朝に調理したお弁当を担当スタッフが毎日お届けしています。栄養バランスを考え、旬の野菜や魚を使い、毎日の「夕ごはん」が楽しくなる献立メニューをお弁当でお届けしています。また、お弁当と一緒に注文ができるサイドメニューの提供サービスもあり、食パンやバナナ、たまご、ヨーグルトなどもご利用いただけます。



つながりで守る、安心のまちづくり

地域の見守り活動

各自治体と「配送時における高齢者等見守り活動」協定を締結しています。宅配事業や夕食サポート事業では、毎週同じ曜日の同じ時間に商品をお届けし、組合員や高齢者と直接お会いする機会が多いという特徴を生かし、自治体と連携を取りながら見守り活動を行っています。配達時に異変を察知した場合、連携している各市町村の担当窓口や地域包括センターなどに連絡しています。

見守り協定数 **23自治体**
見守り通報件数 **63件**



交通安全キャンペーンの実施

京都生協では春と秋に交通安全キャンペーンを実施し、交通ルールの再確認や安全確認の徹底、声かけや学習資料を活用した職員同士の意識共有など、さまざまな工夫を行っています。なかでも宅配事業では、安全運転に対する意識をより高めるため「安全運転大会」を開催し、実技・法規テストを通して技術と知識を競い合い、安全運転の向上に取り組みました。



地域の居場所づくりパネル展

京都生協がサポートする高齢者の居場所づくりを推進するコープクラブの活動の様子を、コープ二条駅KYOTO Co-Labで紹介しました。地域に根ざした取り組みとして長年続いているクラブもあり、展示では集いの場の和やかな雰囲気や、メンバー同士の温かな交流の様子を伝えました。



地域とつながる支援活動

フードドライブ

フードドライブとは、ご家庭で使いきれない未使用食品を持ち寄り、フードバンクを通じて、まとめて地域の福祉団体や施設などに寄付する取り組みです。2017年から開始し現在は全店で実施しています。寄付された食品は、母子支援施設や子ども食堂といった支援を必要とする方々へ提供されています。

総回収量 **6,439kg**

宅配物流センターにある予備商品をフードバンクに提供しています。

提供量 **5,034kg**



返品商品を通じた地域支援

宅配では、入院などやむを得ない事情を除き、「良品での返品を受け付けない」運用を行っています。事情により発生した返品商品は、京都府社会福祉協議会や市区町村社会福祉協議会を通じて、子ども食堂など地域の福祉に活用されています。京都府社会福祉協議会と協定を締結しており、食を中心とした支援の充実やSDGs目標の達成に向けて取り組みを継続しています。

宅配良品返品数 **48,344点**
(前年比86%)

そのうち社会福祉協議会などへの提供量 **9,140kg**



京都府社会福祉協議会との連携

京都府社会福祉協議会が食品を購入し、子ども食堂などへ配布する「京の子ども食堂支援プロジェクト」と連携し、京都生協は商品の調達と地域拠点施設への食品配達を行いました。食品をお届けした子ども食堂やフードパントリーからは喜びの声をいただき、地域連携やSDGs課題解決への貢献の一助となりました。



社会貢献助成金制度

誰もが安心して暮らせる地域社会づくりの推進をはかることを目的に、京都府を拠点にSDGsに貢献するNPOなどの団体の活動を支援する、社会貢献助成金制度を設けています。京都生協だけで取り組むことが難しいようなさまざまな課題に取り組む団体の活動を助成金制度を通じて支援しています。

2025年度助成先 **9団体** 助成金総額 **200万円**



助成団体の活動を紹介 フリースクールマナビノ

京都市右京区の京北第三小学校の空き部屋を活用した居場所づくり支援活動を行っておられます。子どもたちが自然に触れたり、探究活動ができる「裏山のアウトフィールド」活動に助成金が活用されました。



きょうされんと京都生協

「きょうされん」は、障害者施設などが加盟する全国組織で、障害者や家族の願いをもとに、障害のある人たちが地域で安心して暮らせる社会を目指して、国や自治体への要望活動や研究を進めています。きょうされん京都支部と京都生協は1990年に協定を結び、署名や募金、学習交流、商品販売などさまざまな提携活動を行っています。

7月、「きょうされんと京都生協のつどい2025」を開催し、京都生協の組合員やきょうされん作業所の関係者が120人以上参加しました。今年は「手話」をテーマに、作業所の仕事体験のワークショップなどが企画され、交流と学びの機会となりました。また、京都生協の店舗も、きょうされんの商品を取り扱い応援しています。

(取り扱い店舗)・コープ下鴨 ・コープさかの ・コープ二条駅 ・コープ醍醐石田 ・コープ桃山





持続可能な世界の実現に向けて

誰もが安心して暮らせる持続可能な世界の実現のために、一人ひとりができることを考え、行動することが大切です。京都生協では、平和の取り組みのさらなる発展を目指して「平和への願い」を策定しています。また、国際貢献では支援活動に取り組んでいます。

組合員とともに学ぶサステナブルな取り組み

エシカルなお買い物イベント

コープ桃山・コープきぬがさで、京都市と連携したエシカル消費推進イベント「エシカルなお買い物クイズラリー」を開催しました。両店舗あわせて300人以上が参加し、店内に設置した4つの「エシカル消費対応商品」を探しながらクイズに挑戦しました。京都市キャラクター「えしかるん」のマークを目印に回り、正解者には、回収したペットボトルを再生利用したパッケージを使ったCO・OPビーフカレーなどをプレゼントしました。



アースデイin京都へ参加

2025年5月31日、アースデイは地球環境について考え行動する国際的な記念日で、京都でも「アースデイin京都」として、環境に優しい暮らしや消費をテーマに市内各地で関連企画が展開されました。

当日は200人近い方が参加し、京都生協も京都市、小川珈琲、無印良品と連携し、親子で参加できる「美味しい珈琲の淹れ方教室」や、「オリジナルマイバッグ作りワークショップ」を実施しました。廃棄野菜を使ったスタンプやクレヨンでのバッグ作りには多くの組合員が参加しました。



京都市の小学校で“出前授業”を開催

京都市内の小学校で出前授業を行い、FSC認証や、再生PET包材商品を例にエシカル消費を紹介しました。お買い物袋持参運動や店頭リサイクルについて説明すると、児童はエシカルマークを手に「リサイクルに参加したい」「マイバッグを使う」とエシカル消費の行動につながる意見を多く寄せてくれました。



いきもの学校

「いきもの学校」は、生き物の生きる力や生物多様性の大切さを、専門スタッフの講義とフィールドワークを通じて楽しく学ぶ取り組みです。動物園編では、飼育環境の工夫や糞を利用した循環型農業、バックヤード見学を通じて動物福祉（アニマルウェルフェア）を実感。里山水生生物編では、用水路でカエルや小エビを採取し、顕微鏡観察やスケッチで生態を学習。植物園編では、珍しい温室植物の観察や常緑樹の香り体験を交えた生物多様性講義を行いました。子どもから大人まで自然とのつながりを深め、持続可能な社会づくりへの意識を高める貴重な時間となりました。



規格外野菜の活用

店舗では、職員が産地を訪ね、商品について学ぶための産地研修を行っています。また、産地の生産者と関わり、課題を聞くことをきっかけに、市場規格に満たない規格外野菜や、形状にムラがある「わけあり商品」を取り扱うなどの食品ロス削減に取り組んでいます。わけあり理由をお知らせし、組合員にお伝えすることで、生産者を支える取り組みを行っています。



組合員活動で進める環境の取り組み

エリア会活動では、食品ロス削減として「コープいもけんぴ」製造時に出るかけらを使用したチョコレートや、野菜の芯を活用したスムージーを食べ比べ、メンバー間での気づきを交換し合いました。他にも、食品トレー等を回収する企業の担当者を講師に迎え、資源循環型リサイクルの考え方を学ぶ学習会を実施するなど幅広く学びを進めました。





エシカル消費を推進

エシカル消費対応商品の普及

地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」、そしてそれは「誰かの笑顔につながるお買い物」であると考え、エシカル消費の啓発に積極的に取り組んでいます。

コープのエシカル
公式サイト



エシカルなCO・OP商品の一例

MEL認証

マリン・エコラベル・ジャパン (MEL) は、水産資源の持続性と環境に配慮している、日本の漁業や養殖業を認証しています。この商品の利用が、資源や環境の保全に取り組む生産者を支えることにつながります。



FSC® 認証

FSC® 認証は、適切に管理された木材と責任ある原料調達をした製品を確実に消費者に届けることで、森林資源の保全を消費者が支える仕組みを作っています。FSC® N001819 www.fsc.org



エシカル消費対応商品
供給点数 **2,465万点**
(前年比96.4%)

目で見て選ぶエシカル消費

組合員がエシカル消費に対応したコープ商品を見つけやすいよう、店舗売り場や宅配カタログに目印を表示しています。宅配注文カタログには、森林資源の保護やプラスチック削減などにつながる取り組みを示すマークを表示し、該当商品が一目で分かるように工夫しています。店舗では、プライスカードに専用マークを付けたり、エシカル対応商品の専用売り場をつくり、組合員自身を楽しみながらエシカル消費を実践できる環境づくりを進めています。



寄付金商品

もずくでサンゴを救う「サンゴ再生もずく基金」

もずくの生産と消費を通じて「里海づくり」を推進するために、2012年12月に「恩納村コープサンゴの森連絡会」が結成され、2013年から京都生協でも「サンゴ再生もずく基金」に取り組んでいます。いま沖縄の海では、地球温暖化やオニヒトデの大発生などにより、サンゴが白化して死滅する現象が起こっています。死滅したサンゴに代わり、新しいサンゴの苗を植え付けてサンゴ礁の海を育む活動として、基金対象商品の「もずく」を購入することで1品あたり1円がサンゴ再生事業を支援するための基金になっています。



応援金 **336,185円**

飼料米と生産者を応援「産直さくらこめたまご応援金」

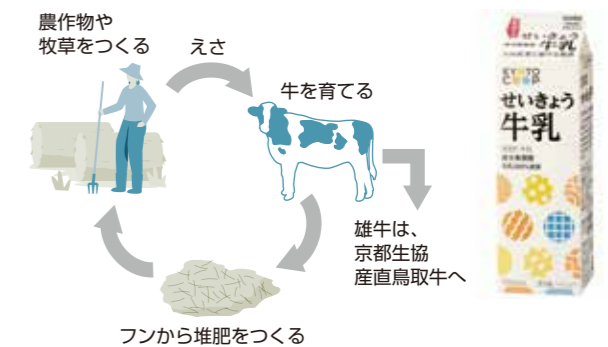
産直さくらこめたまごは、京都育ちの国産鶏「さくら」が、京都府産の飼料米を食べて、京都で産んだ「京都のたまご」です。農業・農村の再生、食糧自給率の向上、地産地消の取り組みとして2009年にスタートしました。鶏の餌を、外国から輸入されるトウモロコシではなく、少しでも国産のお米に切り替えようと、京都府内の休耕田で生産した飼料米を京都府内の養鶏場で鶏に給餌し、産んだ卵を京都生協の組合員が利用する地産地消の取り組みです。さくらこめたまごを1個利用すると、1円が生産者に寄付される応援金になっています。



応援金 **3,436,452円**

循環型酪農 KYOTO せいきょう牛乳

せいきょう牛乳は鳥取にある大山乳業で製造されており、「生みの親」である乳牛は、鳥取県の大江山麓をはじめ自然豊かな牧場で健康的に育てられ、全国でもトップレベルの乳質を生み出しています。牛の健康に欠かせない良質な牧草は酪農家自らが土を耕し育て、牛の堆肥など有機肥料を活用する循環型酪農に取り組み、質の良い牛乳を未来につないでいけるよう、SDGsの視点で生乳づくりに取り組んでいます。





サステナブルな社会の実現に向けた活動

リサイクル実績

宅配や店舗で使用した容器や包材、カタログなどを回収し、再生品の原材料とするリサイクル活動を行っています。

	宅 配		宅配・店舗		店 舗		
回収品目							
	内袋、注文書 セット袋	カタログ類	紙パック	卵パック	トレー	透明容器、 透明ふた	ペットボトル
用 途							
	プラスチック製品 の原料	新聞用紙、 印刷用紙	トイレロール、 ティッシュペーパー など	卵パックの原料	トレー	透明容器 (エコトレー)	透明容器、 コープ商品の パッケージ
回収量(t)	44.0	4,158.8	118.9	44.7	20.4	2.5	95.7
回収率(%)	26.0	81.1	50.8	68.6	60.7	—	197.9*
CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)	—	—	106.3	165.4	100.8	—	311.0

※京都生協での供給量以上の量を回収しています。
※ペットボトルキャップ回収量 610万個

宅配内袋の回収

宅配で使用する内袋・注文書セット袋の回収を行い、プラスチックごみ削減に取り組んでいます。組合員には受取後の袋を配達時に返却するだけでリサイクルができることを、チラシや店舗掲示でお知らせしました。戻していただいた内袋はリサイクルすると再生プラスチックの原料になり、新しいプラスチック素材になります。こうした「捨てない」習慣によって、ごみを減らし資源を有効活用し、環境負荷の低減につながっています。

回収量 **44.0t** 回収率 **26.0%**



食品ロス削減と食品リサイクルの向上

宅配事業の取り組み

2021年度から宅配での食品の良品返品は原則受け付けないこととするルールを設け、食品廃棄問題への対応に取り組んでいます。

食品良品
返品数 **48,344点**
(前年比86%)

店舗事業の取り組み

コープ二条駅の削減型生ごみ処理機と、南部4店舗の堆肥化に加え、実態に合わせた店舗の生ごみ基準値の見直しにより、食品リサイクル率は67.6%と、前年42.5%から大きく向上しました。

コープ二条駅で減容した排出量 **28,852kg** 全店の食品リサイクル率 **67.6%**



量り売り

2025年4月に改装したコープ祝園駅に量り売りコーナーを導入しました。欲しい分だけを量って購入できるため食品ロス削減にもつながります。容器も紙袋でのご利用もできる形にし、プラスチックごみの削減にも貢献しています。
(量り売り実施店舗)・コープ二条駅 ・コープ祝園駅



規格外原料を使用した商品の開発

CO・OP商品では、「規格外原料」や「活用されていない原料」のうち、廃棄されやすく再生利用先のない原料を活用した「食品ロス削減商品」の開発を推進しています。組合員に食品ロス削減の商品であることが伝わるよう、パッケージにも分かりやすく表示しています。「もったいないをおいしく」をコンセプトに、選別工程で規格に沿わなかったバナナを使用した「完熟バナナスムージー」など京都生協でも取り扱いを広げています。





CO₂排出量削減

京都生協は「環境2030構想」を掲げ、CO₂削減目標を設定しています。

『環境2030構想』

2030年までにグループのCO₂排出量を**2013年度比50%以上削減**することを目指します。

- 削減計画を達成するために、事業所設備の省エネ化、既存施設の省エネ、太陽光自家発電・自家消費、CO₂排出係数の低い電気の購入の施策を実施します。
 - 電気でのCO₂排出量削減の取り組みにより、2030年目標の達成を目指します。
 - 上記(1)以外でのCO₂排出量削減の取り組みにより、2050年カーボンニュートラルを目指します。
- 削減目標は技術の進歩や社会情勢および事業活動を考慮して3カ年ごとに見直します。

削減に向けて

削減目標に基づいて、2024年12月から30施設の使用電気を再生可能エネルギー由来のCO₂フリー電気に転換しました。それにより2025年度は、電気でのCO₂排出量が大きく削減しました。また、節電の取り組みとして、夏季省エネ活動「キープ・28」、冬季省エネ活動「キープ・20」を実施しています。

CO₂排出量 **4,639t**
(前年比56.5%)

EV車の導入と配達コースの効率化

宅配では、一部の営業車に電気を使用するEV車を導入し、事業所設備の省エネ化などにより、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。効率の良いルートで配達を行うことが、配達時間の短縮につながり、使用するエネルギー量の削減につながることから、“コースの効率化改善”にも取り組んでいます。



太陽光発電

本部や配送センター、店舗の屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの創出・使用による電気由来のCO₂削減に取り組んでいます。

太陽光発電量 **約101万kWh**

太陽光発電施設数 **11施設**



SR環境

SR・環境方針

京都生協は、「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、全組織をあげて環境負荷の低減をはじめとするSR（社会的責任）活動の向上に努力し、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に貢献することを方針に掲げています。また、2014年よりKES・環境マネジメントシステムのステップ2SRに登録維持をしており、毎年、SR・環境目標を計画してSR・環境マネジメント活動の継続的改善を図っています。

京都生協
SR（社会的責任）
・環境方針



- 当生協の事業活動、商品及びサービスに係る「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することを常に意識し、SR活動の向上並びに環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、改善活動の幅を7つの中核主題に広げ、SR・環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。なお、環境保護には、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護などを含みます。
- 当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境マネジメント活動に関して適用される法的及びその他受け入れを決めた要求事項を順守します。
- 当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境影響のうち、7つの中核主題として「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」の項目をSR・環境管理重要テーマとして取り組みます。
- 一人ひとりがSR活動の向上、及び環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、このSR・環境方針を全従業員に周知するとともに、一般の人々が入手できるようにします。
- 組合員によるSR・環境改善活動に積極的に取り組み、日々の消費のあり方が持続可能な社会の実現に多大な影響を及ぼすことへの自覚を広げます。あわせて、地域のSR・環境改善活動にも積極的に参画します。

目標と評価

A良好(100%以上達成)、Bやや不足(90%以上達成)、C不適合(90%未満)

中核主題	2025年度の目標	2025年度の取り組み	評価
1 組織統治	若手職員への理念の継承を行います。	理念や大切にしている思いを伝える場として、職員への理念研修、産地研修、平和学習を行いました。	A
2 人権	人権方針の策定と職員教育の実施。	人権方針を7月に策定し、職員教育を実施しました。	A
3 労働慣行	階層を問わない職員教育(コンプライアンス、ハラスメント他)を実施します。	全職員を対象に「ハラスメント抑止・防止教育」を実施しました。	A
4 環境	CO ₂ 排出総量の削減を、2024年度比60%とします。	CO ₂ 排出量は、4639tで前年比56.5%となり、目標比106.2%となりました。	A
	自然冷媒機器の導入。	コープ祝園駅の改装工事において、自然冷媒機器を一部導入しました。	A
	使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を削減します。	使用量は411,763kg、前年比99.3%と、商品パッケージ、宅配内袋で削減となりました。	B
5 公正な事業慣行	リサイクル回収総量2024年度比100%とします。	リサイクル回収総量は、326,268kgで、前年比106.1%と増加しました。内袋リサイクル回収率は、26.0%となりました。	A
	ESG消費対応商品の供給数量を2024年度比100%として、普及を図ります。	ESG消費対応商品の総利用点数は、宅配の総供給点数の減少もあり、約2,465万点、前年比96.4%となりました。	B
6 消費者課題	おかいものサポートカー利用登録人数1,350人、おかいもの便停留所数110カ所。	おかいものサポートカー利用登録人数1,453人、移動店舗おかいもの便停留所数102カ所でした。おかいもの便は、1カ所増ですが目標には未達です。	B
	食品リサイクル率の向上に向けた施策を実施します。	南部4店舗の堆肥化、実態にあわせた店舗の生ごみ基準値の見直しなどにより、食品リサイクル率は67.6%(前年48.9%)と向上しました。	A
7 コミュニティへの参画・コミュニティの発展	研修受け入れ・学習会の開催200回を目指します。	学習会、事業所見学などの年間活動総数は346回となりました。	A



国際貢献/協力

ユニセフ募金と活動

京都生協は、ユニセフ募金に継続して取り組んでいます。2026年1月はコープ二条駅KYOTO Co-Labにて、日本ユニセフ協会の担当者を講師に迎え、ユニセフの活動について学ぶ学習会を開催しました。京都生協が行う「ユニセフ・ミャンマー指定募金」の具体的な使い道や、ミャンマー情勢の今について報告いただきました。会場では、ミャンマーの民族衣装や子どもたちのおもちゃなどを展示しました。



ユニセフ募金額総額

410万1,632円

京都生協とユニセフ募金活動

ユニセフは世界のすべての子どもの命と権利を守るため、最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、約190の国と地域で活動しています。その活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金や各国政府からの任意拠出金でまかなわれています。京都生協では、1989年からユニセフ募金の取り組みをスタートしました。現在は「ユニセフ・ミャンマー指定募金」に取り組み、ミャンマーの女性と子どもたちのための栄養支援プログラムを応援しています。

ハンガー・フリー・ワールド

2025年3~5月に、ご家庭でできる国際協力として、NGOハンガー・フリー・ワールドが呼びかける「第24回書き損じハガキ等回収キャンペーン」に参加しました。ご家庭にある有価物、書き損じハガキ、未使用切手、中古CD、DVDなどを封筒に入れてご提供いただきました。また、世界の飢餓の状況について学ぶ「ハンガー・フリー・ワールド活動報告オンライン学習会」を開催し、参加者たちは切手を仕分ける様子など、支援の先の様子を見ることができました。



回収封筒数

3,189件

換金後の支援額

622万5,840円

国際協同組合年 イタリア生協団の訪問

京都生協が姉妹提携協定を結んでいる、イタリア・ユニコープ・フィレンツェおよびイタリア生協団が、宅配の支部を訪問し総勢40人で交流会を行いました。支部内の物流システムや仕分け作業の様子を見学し、組織概要や活動内容についてディスカッションを行いました。地域社会づくりと食の安全という共通理念を再確認しました。2025年国際協同組合年を機に、国境を越えた連携をさらに強化し、SDGsの推進にも貢献していきます。

※1983年締結 姉妹提携協定



ミャンマー地震緊急募金

2025年3月、ミャンマー中部マンダレーで発生したマグニチュード7.7の地震被害を受け、日本ユニセフ協会では「ミャンマー地震緊急募金」を実施しました。紛争や気候危機により厳しい状況にある同国の子どもたちへ、医療チーム派遣、避難所・仮設シェルター設置、食料・飲料水などの緊急支援を届けるため、京都生協も組合員へ向け支援募金を呼びかけました。



© UNICEF/UNI770507/anonymoustr
地震の影響で倒壊した建物。
(ミャンマー中部マンダレー、2025年3月29日撮影)

募金一覧

募金名	金額	募金名	金額
ユニセフ募金	1,380,570円	きょうされん募金	1,707,837円
ユニセフお年玉募金	2,721,062円	くらしの助け合いの会への募金	679,659円
ハンガー・フリー・ワールド「書き損じハガキ回収キャンペーン」への協力	6,225,840円	平和募金	425,621円
くらしを守る取り組みを支える募金	880,257円	能登を笑顔に！応援募金	691,743円
NPT再検討会議	155,097円	岩手県大船渡市山林火災支援募金	7,511,402円

多様性を認め合う 活力ある組織を目指して

京都生協は新たな希望をつくることをビジョンに掲げ、多様性を認め合う、活力ある組織を目指し、職員が安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいます。

職員の自主研修を応援

京都生協では「多様性を認め合う活力ある組織」を目指し、職員一人ひとりが主体的に学び合い、交流する場を大切にしています。その取り組みの一つが自主研修企画です。2025年秋、美吉野農園で開催された自主研修では、柿の収穫ボランティア、生産者との対話を通じて、産地が抱える課題や取り組みに触れることができました。職員と生産者、組合員がつながる好循環を生み出し、組織全体の活力となっています。



事業間の連携で目指す商品供促

店舗と宅配の職員同士が、「5種具材の冷し茶わんむし」を店頭でおすすめる取り組みを行いました。宅配職員が交代でお店の売場に立ち、試食・声かけ・陳列演出を双方で協力し合いながら行いました。店舗職員は宅配職員のテンポの良い声かけに刺激を受け、宅配職員はリアルな売場づくりを体験して、自分たちの提案の幅を広げることができました。組合員からは「新しい食べ方が分かった」「スタッフが楽しそうで思わず手に取った」など好意的な声が寄せられ、双方向の対話の大切さを再確認することができました。



研修の様子は部内報で紹介

研修やプロジェクトの様子は部内報で紹介しています。部内報を通じて、現地の雰囲気や学びの内容を知ることができ、組織全体で状況を共有することができています。このような情報を他部門や職員同士が共有することにより、普段の業務の枠を超えた新しいつながりや、部門を越えた人脈が広がり、多角的な視点や発想に広がりを見せています。



ワークライフバランス

多様性を尊重し、誰もが安心して活躍できる職場環境を整えることが、地域や社会の未来に貢献するとの考えのもと、女性管理職比率の向上、育児・介護・ドナー休暇の充実、そして障害者雇用に取り組んでいます。多様な働き方と包摂的な職場環境を整えることで、すべての人々が安心して能力を発揮できる社会の実現を目指しています。

女性管理職	20.2%
育児休業取得者数	24人
男性育児休業取得率	46%
育児時短勤務利用者数	20人
介護休暇・休職取得者数	0人
シニア(65歳以上)雇用※	583人
障害者雇用率	3.54%

※アルバイト

職員の自主性応援 チャレンジ申告制度

自分でキャリアを切り拓くための「チャレンジ申告制度」を導入し、職員一人ひとりが自らの意志で「チャレンジしたい仕事や職務」を申告し、その希望を実現可能な範囲で異動や配置につなげています。入協して3年目の正規総合職員は全員申告を行い、理想のキャリアに挑戦する仕組みを整えています。

子ども参観日

親の仕事体験することで「働くこと」について学び、親子の絆を深めることを目的に、7月～8月の夏休み期間に「子ども参観日」を実施しました。

参加者の感想

おかあさんの働いている姿を見て誇りに思いました。組合員の前ですごく笑っていたのがカッコ良かったです。頑張っている姿を見たので、私も家では積極的にお手伝いをしていきたいです。



ハートコープきょうとの雇用

ハートコープきょうとは、「障害者雇用促進法」に基づき設立された、京都生活協同組合100%出資の特例子会社です。京都生協のパートナー企業として、リサイクル事業などを通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など、社会への貢献に取り組んでいます。リサイクル事業では、回収された宅配のカタログや内袋、たまごパックを分別・減容・梱包して資源化しています。



みだしなみ基準の見直し

2025年8月、職員一人ひとりの「自分らしさ」を尊重しつつ、組合員や地域の皆さまに清潔感と安心感を提供することを目的に、職員の身だしなみ基準を見直しました。清潔感、周囲への不快感を与えない装いで、ヘアカラー、ネイル、アクセサリーの使用を自由化し、多様性を尊重する職場環境づくりを進めました。



人権方針の策定

2025年7月、理念「頼もしき隣人たらん」および「コープSDGs行動宣言」に基づき、人権尊重を推進する「人権方針」を策定しました。この方針はグループ全職員に適用し、組合員や取引先、地域社会にも賛同を呼びかけ、対話と協働を通じて人権が尊重される持続可能な社会の実現に貢献します。人権デュー・ディリジェンスの推進も盛り込み、今後も人権尊重を基盤に事業・活動を推進していきます。

人権方針



ハラスメント教育

ハラスメントの種類や影響について理解を深めるためハラスメント教育を全職員に実施しています。また、全職員を対象にしたCSR教育では「コンプライアンスアンケート」を実施しており、誰もが安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

コンプライアンス相談件数

職員相談件数 **29件** 取引先相談件数 **0件**

被災地支援と防災力を高める多様な実践活動

つながる力で能登を笑顔に

能登半島地震および奥能登豪雨災害の被災地支援のため、石川県金沢市で開催された「つながる力で能登を笑顔にアクションinいしかわ」(コープ被災地支援センター主催)に、組合員理事と職員あわせて6人が参加しました。全国から45生協・団体185人が集まり、被災地の現状や課題について学びました。7月と9月には京都府生協連と京都生協の職員、組合員理事が石川県の仮設住宅に暮らす方を対象に「たこ焼きサロン活動」を実施しました。現地では小学生やその家族、高齢の方も参加され、地域の方々と交流し笑顔があふれる場となりました。



▲「たこ焼きサロン活動」の様子

京都府総合防災訓練

9月1日の防災の日を前に、京都府宮津市の小中学校および府立高校の3会場で京都府総合防災訓練が実施され、京都府生協連とともに救援物資輸送訓練に参加しました。京都生協はお茶と常温保存牛乳を会場へ輸送し参加者に配布することで、災害時の物資供給の役割を確認しました。今回の総合防災訓練は、地震および水害による複合災害の発生を想定し、防災関係機関と地域住民が通信訓練や避難所の開設など、さまざまな訓練を行いました。



危機管理広報演習の実施

BCP(事業継続計画)の一環として、役員および対策本部メンバーが参加する危機管理広報演習を実施しました。企業不祥事等の危機発生時に、広報対応として何をすべきかを事前に訓練することで、組合員や地域との信頼と安心を守る体制づくりを目的に「初動の対応」「関係者への説明方法」など専門家指導のもと実践的な対応力を学びました。



組合員の声検討委員会

宅配や店舗、組合員コールセンターなどに寄せられた組合員のリアルな声から課題を発見し、組合員の暮らしの願いを実現させるため、組合員の声検討委員会を立ち上げています。中でも、「組合員からのありがとう」や、「対応で喜ばれた」事例をつくり、広げていくことで、一人でも多くの組合員にポジティブな実感をもっていただけるような取り組みにしています。

コールセンター問い合わせ件数
(意見要望/問い合わせ/お申し出)

302,989件



組合員に向けたアンケートの実施

組合員の声を目視化し、検討・改善へつなげて循環させることを目的に、組合員に向けたアンケートを実施しました。集まった声は、組織の中で取り上げ業務の改善につなげています。



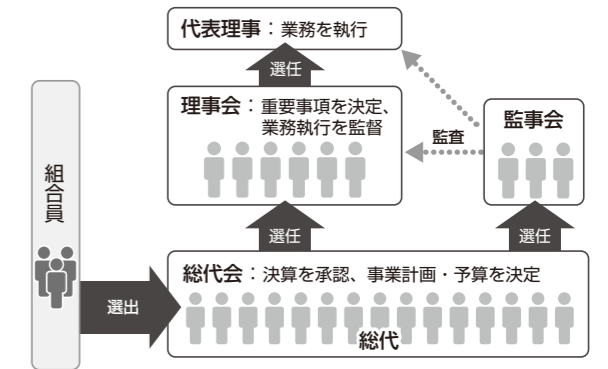
カスタマー・ハラスメント方針策定

京都生協は「頼もしき隣人たらん」の理念のもと、職員が安心して働き続けられる環境づくりのため、2025年3月に「カスタマー・ハラスメントに対する基本方針」を策定しました。この方針はグループ全職員に適用し、顧客からの理不尽な言動を防止・対応するための定義や報告手順、相談窓口を明確化しました。被害を受けた職員への支援体制を整え、研修や啓発活動を通じてハラスメントの未然防止と職場の安心感向上を図ります。



生協運営のしくみ

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。生協で機関に当たるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて重要事項を決定する「理事会」、生協を代表して業務を執行する「代表理事」、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」です。



経営責任

公正で健全な組織運営を行うため、2010年に「内部統制基本方針」を定め、以下4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度および業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性などについてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。

- 業務の有効性および効率性
- 財務報告の信頼性
- 事業活動に関わる法令などの順守
- 資産の保全

内部統制システムの整備

業務マネジメントシステムの運用

「目指すべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるためのしくみ」として、「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善を進め、組合員満足の向上、商品・サービス品質の向上、事業計画の達成を目指します。

コンプライアンス体制の推進

倫理・法令や社会規範、職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定めて、職員にコンプライアンス順守、ハラスメント防止、ネット上での情報発信の注意、飲酒運転の撲滅などの啓発をしています。

事業継続計画 (BCP)

地震・台風・豪雨などの災害に対して、京都生協では事業継続計画 (BCP) に基づき地震災害・風水害の各対応マニュアルに沿った対応をしています。他団体との通信訓練や職員の安否確認訓練などを定期的実施するとともに、行政などの多様な組織と連携した取り組みを進めています。また、情報セキュリティ対策の強化も重点に据え、暮らしを支える事業の継続に努めています。

外部審査の結果

特定非営利活動法人KES 環境機構に登録し、毎年の定期審査を受け、業務マネジメントシステムが有効かつ適切に機能・維持されているかを審査しています。

- 審査機関：特定非営利活動法人KES*環境機構 *京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格
- ◆ 審査結果：KESステップ2SRに適合していると判定されました。◆ 受審組織：京都生活協同組合
- ◆ 審査実施日：2025年9月10日・11日 ◆ 適用規格：KESステップ2SR
- ◆ 審査目的：京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。